

## 平成 27 年度の事業報告書（案）

平成 2 7 年 4 月 1 日から平成 2 8 年 3 月 3 1 日まで

特定非営利活動法人原子分子データ応用フォーラム

### 1 事業の成果

平成 27 年度は、研究者、技術者及び一般市民に対して、原子分子データに関する基礎、応用分野の研究開発に関する発表会として、「原子分子データ応用フォーラムセミナー」を、核融合科学研究所「プラズマ科学における分光計測の高度化と原子分子過程研究の新展開」研究会と合同で開催した。プラズマのバイオ、医療、農業などの応用研究で重要であり、プラズマプロセスにも共通性のある原子分子過程を取り上げ、原子分子データの立場から、基礎と応用の仲立を図り、現象のより良い理解、研究開発への寄与を図ることを目指しセミナーを行った。研究会で取り上げるテーマや、講演者の選定のために検討会を開いて議論し、研究会を通じて原子分子データのニーズとシーズのマッチングがより効果的に実施できるように努めた。

また、「プラズマシミュレーションに用いるレート係数の推算方法の調査」分科会の活動として、引き続きプラズマシミュレーションにおいて重要な原子分子種や原子分子過程に関する調査、経験則、計算式などのデータ集の作成を目指した活動を行った。原子分子データに関する「研究者のデータベース」、「欲しいもののリスト」に関する検討、それを実現するためのインターネットの活用、研究者、技術者から一般市民までの間のコミュニケーションの促進のためのソーシャルネットワークサービス（SNS）の活用に関する作業部会による検討も継続して行った。また、会員からの情報発信を進めるため、会員からの記事の応募を行い、会報を発行する準備を行った。

以上の活動により、会員である原子分子データの生産者と利用者の間で活発な討論が行われ、一般市民に対しても原子分子データの利用、普及に寄与する活動ができたと考えている。

### 2 事業の実施に関する事項

#### （1）特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象 者の範囲 (E) 人数	事業費の金額 (単位：千円)
(1) 原子分子 データベース の構築と 利用・普及 を推進する ための事業	フォーラムの活動方針、分科 会活動、データベースの構築、 利用、普及についての検討会 の開催	(A) 平成 27 年 5 月 9 日 (B) 核融合科学研 究所および首 都大学東京(TV 会議) (C) 4	(D) 研究者、 技術者 (E) 20	0

	バイオ、医療、農業、プロセスにも共通性のある原子分子データ、原子分子過程についての検討会の開催	(A) 平成 27 年 10 月 23 日 (B) 核融合科学研 究所 (C) 2	(D) 研究者、 技術者、 一般市民 (E) 20	0
	バイオ、医療、農業、プロセスにも共通性のある原子分子データ、原子分子過程に関する「原子分子データ応用フォーラムセミナー」の開催	(A) 平成 28 年 1 月 27-29 日 (B) 核融合科学研 究所 (C) 14	(D) 研究者、 技術者 (E) 70	354
(2) 原子分子データの生産者と利用者に対するインターネットを活用した情報の提供および、相互のコミュニケーションを促進するための事業	原子分子データ応用フォーラムホームページ、メーリングリストの整備	(A) 随時 (B) 法人事務所 (C) 2	(D) 研究者、 技術者、一 般市民 (E) 500	16
	原子分子データに関する研究情報、会合情報などのホームページへの掲載	(A) 随時 (B) 法人事務所 (C) 2	(D) 研究者、 技術者、一 般市民 (E) 500	0
	機関誌の発行および配布の準備	(A) 随時 (B) 法人事務所 (C) 4	(D) 研究者、 技術者、一 般市民 (E) 500	0
(3) 国際会議、シンポジウム、研究会、講習会、研修会の開催、共催、協賛に関する事業	ISPlasma 2016 会議の後援	(A) 平成 28 年 3 月 6 日-3 月 10 日 (B) 名古屋大学 (C) 1	(D) 研究者、 技術者、一 般市民 (E) 400	0

平成27年度 活動計算書（案）

平成27年 4月 1日から平成28年 3月31日まで

単位：円

特定非営利活動法人 原子分子データ応用フォーラム

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員入会金	3,000		
正会員受取会費	0		
賛助会員受取会費	30,000	33,000	
2 事業収益			
1) 原子分子データベース構築、普及事業収益	96,000		
2) インターネット情報提供事業収益	0		
3) 国際会議、シンポジウム等開催事業収益	0		
4) 国内外における研究連携窓口事業収益	0		
5) 国際会議等への講師紹介派遣事業収益	0		
6) 教育プログラム開発、教育支援事業収益	0		
7) 書籍、機器、ソフトウェア等紹介事業収益	0		
8) 書籍、電子媒体、グッズ等製作販売事業収益	0	96,000	
3 受取寄付金			
受取寄付金	22,575		
ボランティア受け入れ評価益	224,000		
施設等受け入れ評価益	11,000	257,575	
4 その他収益			
受取利息	26		
雑収益	0	26	
経常収益計（A）			386,601
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	0		
ボランティア評価費用	224,000		
人件費計	224,000		
(2) その他経費			
セミナー事業費	118,575		
通信運搬費	15,768		
施設等評価費用	11,000		
その他経費計	145,343		
事業費計		369,343	
2 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
人件費計	0		
(2) その他経費計			
備品費	0		

	消耗品費	324		
	通信費	1,632		
	賃借料	47,520		
	諸会費	0		
	交際費	0		
	租税公課	0		
	支払手数料	0		
	雑費	0		
	その他経費計	49,476		
	管理費計		49,476	
	経常費用計（B）			418,819
	当期経常増減額（A）－（B）			▲ 32,218
Ⅲ	経常外収益			
1	固定資産売却益		0	
	経常外収益計			0
Ⅳ	経常外費用			
1	過年度損益修正損		0	
	経常外費用計			0
	税引前当期正味財産増減額			▲ 32,218
	法人税、住民税及び事業税			0
	当期正味財産増減額			▲ 32,218
	前期繰越正味財産額			200,389
	次期繰越正味財産額			168,171

## 計算書類の注記

平成28年度定期総会  
資料2-2

### 1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

#### (1) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理

施設の提供等の物的サービスの受入れは、活動計算書に計上しています。

また計上額の算定方法は「2. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳」に記載しています。

#### (2) ボランティアによる役務の提供

ボランティアによる役務の提供は、活動計算書に計上しています。

また経常額の算定方法は「3. 活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳」として注記しています。

### 2. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

(単位：円)

内容	金額	算定方法
核融合科学研究所会議室の無償利用	11,000	核融合科学研究所では利用料金を設定していないため、多治見市産業文化センターおよび多治見市文化会館小会議室の利用料(1時間当たり600円と400円)の平均値500円 x 利用時間数22時間=11,000円により算定しています。

### 3. 活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳

(単位：円)

内容	金額	算定方法
非会員によるフォーラムセミナーでの情報提供 7,000円 x 32人	224,000	単価は大学等教員への20分の講演発表謝礼の相場により算定しています。

財産目録

平成28年 3月31日現在

特定非営利活動法人 原子分子データ応用フォーラム

科 目 ・ 摘 要		金 額 (単位：円)		
I 資産の部				
1 流動資産				
現金預金				
手元現金	5,383			
十六銀行普通預金	131,556			
郵貯銀行普通預金	31,232			
流動資産合計		168,171		
2 固定資産				
(1)有形固定資産				
什器備品				
有形固定資産計	0			
(2)無形固定資産				
ソフトウェア	0			
無形固定資産計	0			
(3)投資その他の資産				
定期預金	0			
投資その他の資産計	0			
固定資産合計		0		
資産合計			168,171	
II 負債の部				
1 流動負債				
未払い金	0			
流動負債合計		0		
2 固定負債				
長期借入金	0			
固定負債合計		0		
負債合計			0	
正味財産			168,171	

平成27年度 貸借対照表

平成28年 3月31日現在

特定非営利活動法人 原子分子データ応用フォーラム

科 目 ・ 摘 要		金 額（単位：円）		
I 資産の部				
1 流動資産				
現金	5,383			
普通預金 十六銀行妻木下石支店	131,556			
普通預金 郵貯銀行	31,232			
未収金	0			
流動資産合計		168,171		
2 固定資産				
(1)有形固定資産				
什器備品	0			
有形固定資産計	0			
(2)無形固定資産				
ソフトウェア	0			
無形固定資産計	0			
(3)投資その他の資産				
定期預金	0			
投資その他の資産計	0			
固定資産合計		0		
資産合計			168,171	
II 負債の部				
1 流動負債				
未払い金	0			
流動負債合計		0		
2 固定負債				
長期借入金	0			
固定負債合計		0		
負債合計			0	
三 正味財産の部				
前期繰越正味財産		200,389		
当期正味財産増減額		▲ 32,218		
正味財産合計			168,171	
負債及び正味財産合計			168,171	

平成 28 年度 事業計画（案）（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

特定非営利活動法人原子分子データ応用フォーラム

## 1. 事業実施の方針

平成 28 年度は、研究者、技術者及び一般市民に対する、原子分子データに関する基礎、応用分野の研究開発に関する発表会として、「原子分子データ応用フォーラムセミナー」を開催し、その成果をまとめた資料集（CD を含む）の発行、ホームページでの公開を行う。プラズマプロセス、光源、バイオ、医療、農業などのさまざまな応用研究で重要な原子分子過程を取り上げ、セミナーを開催する。基礎と応用の仲立ちを図るために効果的なセミナーの運営方法について検討し、核融合科学研究所の原子分子データに関する研究会活動との連携を図り、講師の選定、プログラムの編成を行う。また、基礎と応用の研究者、技術者の間で議論、情報交換を行う環境の整備を行い、原子分子データのニーズとシーズのマッチングを図る。

「プラズマシミュレーションに用いるレート係数の推算方法の調査」分科会において、対象とする原子分子種や原子分子過程などの目標を設定し、これまでの調査の結果をまとめ、経験則、計算式などのデータ集の作成とその公開を目指した活動を継続して行う。

ソーシャルネットワークサービス（SNS）の活用に関しては、例えばセミナーの企画、セミナーのフォローアップ、参加者からのフィードバックの取得、基礎と応用の研究者、技術者の間のネットワーキングのための活用方法について検討する。

会報を活用した原子分子データのニーズとシーズのマッチングを図る。会員から原子分子データのニーズ、シーズについてのアピールの記事の募集を行うとともに、会報を基礎、応用分野の研究者に広く配布することにより、マッチングの実現を図る。

これらの活動を通して科学技術の促進、知識の普及、原子分子データに関する基礎、応用分野の研究開発の進歩並びに知識の普及を図る。

## 2. 事業の実施に関する事項

### (1)特定非営利活動に係わる事業

事業名	事業内容	実施 予定 日時	実施予 定場所	従事者 の予定 人数	受益対象者 の範囲及び 人数目標	支出見込み 額 (千円)
(1)原子分子データベースの構築と利用・普及を推進するための事業	原子分子データの基礎、応用分野の研究開発に関する「原子分子データ応用セミナー」の開催	12 月	核 融 合 科 学 研 究 所	10 人	研究者、技術者及び一般市民（80 人）	90
	「原子分子データ応用セミナー」の講演資料集及 CD の製作	1 月	法 人 事 務 所	2 人	研究者、技術者及び一般市民（200 人）	10



	原子分子データの基礎、応用分野の研究開発動向調査および、法人運営方針を議論する検討会の開催	5月、9月	核融合科学研究所	5人	研究者、技術者(50人)	0
	国内外の原子分子データベース活動の情報の集約と普及活動	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者及び一般市民(200人)	0
	「ブラズマシミュレーションに用いるレート係数の推算方法の調査」分科会の活動としての計算式等の収集、公開に向けた活動。	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者(50人)	0 (1)支出合計予定 100
(2)原子分子データの生産者と利用者に対するインターネットを活用した情報の提供および、相互のコミュニケーションを促進するための事業	原子分子データに関する、インターネット上のホームページ、メーリングリストの運営	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者及び一般市民(200人)	16
	インターネットの活用による、コミュニティ構築、「研究者データベース」「欲しいものリスト」構築の検討	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者(50人)	0
	原子分子データに関する研究情報、会合情報などのホームページへの掲載及び、機関誌の発行及び配布	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者及び一般市民(200人)	0 (2)支出合計予定 16
(3)国際会議、シンポジウム、研究会、講習会、研修会の開催、共催、協賛に関する事業	原子分子データの基礎、応用分野の研究開発に関連が深い、国際会議、シンポジウム、研究会、講習会、研修会の共催、協賛。	随時	法人事務所	1人	研究者、技術者及び一般市民(200人)	0
(4)国内外における研究活動連携のための窓口事業	原子分子データに関する研究活動連携を推進するためのシーズとニーズに関する情報紹介	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者(100人)	0
(5)国際会議、シンポジウム、研究会、講習会、研修会への講師の紹介と派遣に関する事業	原子分子データの基礎、応用分野の研究開発に関連が深い、国際会議、シンポジウム、研究会、講習会、研修会への講師の紹介、派遣。	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者及び一般市民(100人)	0
(6)教育プログラムの開発及び教育の実施の支援に関する事業	原子分子データに関する教育プログラムの開発と教育の実施を支援する。	随時	法人事務所	1人	研究者、技術者及び一般市民(100人)	0
(7)書籍、研究開発用機器、ソフトウェアの紹介に関する事業	インターネットホームページ、機関誌において、書籍、研究開発用機器等の紹介。	随時	法人事務所	1人	研究者、技術者(50人)	0
(8)書籍、ソフトウェア、データ集等の電子媒体その他の販売に関する事業	原子分子データの基礎、応用研究に関する資料、解析用ソフトウェア、データ、および啓発、知識普及のためのグッズの製作、輸入、販売を行なう。	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者及び一般市民(100人)	0

## 原子分子データ応用フォーラム平成28年度事業計画についての補足

(原子分子データ応用フォーラムセミナーの企画、運営について)

核融合研の素過程研究会との合同研究会でより成果があがるようにするため、運営を効率的に行うための方法を検討したいと思います。

- ・ 原子分子データ応用フォーラム、素過程研究会それぞれの中心メンバーが集まるキックオフミーティングを開き、テーマや招待講演者の候補選定、そのためのスケジュール等の検討を行います。
- ・ さまざまな事項の決定を効率化するため、会議の議長を選出して権限を与えます。
- ・ 原子分子データ応用フォーラムは依頼講演、素過程研究会は公募の形式でプログラム作成していることを明記（招待講演であることを明記）します。
- ・ 今後のセミナーをより良いものにするために、参加者からのフィードバック（聞いた講演の中で良かったもの、今後聞きたいトピックなど）を取得するなどのフォローアップをします。
- ・ 企画、フォローアップのために SNS (Facebook) を活用します。セミナーに関する連絡をタイムラインにまとめることで、メールが埋没することを防ぎ、1 日一回程度のアクセスで、議論ができるようになると考えられます。適切な公開範囲を設定することで、コアなメンバー同士での議論をしやすく、状況に応じて興味を持った人を議論に参加しやすくします。
- ・ **web** サイトに掲載する情報を充実させます。現在、プログラムと講演者の発表資料のみになっていますが、可能な範囲（作業量が過剰にならない範囲）の情報を追加できればと思います（講演アブストラクト、講演者の発表した論文へのリンク、所属機関・研究室へのリンク、参加者リスト、その充実のために、参加申し込みをするときに参加者の自己紹介になるような適当な発表資料、リンク先を申告することを求めるなど）。

(会報を通じたニーズとシーズのマッチングについて)

原子分子データ応用フォーラムでは、データのニーズとシーズのマッチングを目的として活動を行ってきましたが、セミナー、研究会の開催と協力とともに、会報の発行が重要な活動になっています。フォーラムの活動に対する、内外からの期待は大きいものの、具体的に実行できることは必ずしも多くなく、その中で会報は、編集担当の方のご努力により毎年1回、第5号まで発行することができ、活動として定着してきたと思います。

活動を継続するためには無理のない範囲で行うことも重要と考えてきた結果、これ

までの会報は、会の活動状況を、会員に対してお知らせするという考え方で、会員（正会員および準会員）だけに電子メールで配布していますが（Web サイトにも掲載）、今年度は、会報をフォーラム内のニーズ、シーズを科学コミュニティに広く配布して両者のマッチングを試みたいと考えます。

原子分子データのニーズ、シーズについて、各々の応用研究のための原子分子データの必要性、原子分子データの実験的な計測や、理論計算、あるいはデータベースやコードの提供の提案などをお持ちで、情報発信について積極的に考えられている会員の方に一般の人にもわかりやすい記事のご執筆をお願いするとともに、電子メールで配布するにあたり、会員の皆様に送付先として適当と考えられる人をご紹介いただいて、科学コミュニティに向けてより広く配布するようにして、読者の方からのレスポンスを期待したいと思います。

従って、今年度の会報の発行については、記事執筆をお願いするとともに、ぜひ配布先についての情報を提供して下さるようお願いしたいと思います。また、有効なフィードバックを得るためのアイデアも考えていただければと思います。

科学コミュニティ内でもスパムと思われるような情報がしばしば配信されていますが、これまでの活動の経験で、情報が有用なものであれば正しく伝わり、それをもとに建設的な議論が行われるという印象を持っています。また、研究分野が多岐に渡る結果、必要な情報を見つけにくい傾向がある一方、いったんコンタクトが成立すれば、電子メール、Web、チャット、SNS 等を活用し、コミュニケーションを確立することは以前より容易になっていると思います。

このような試みで、実際にマッチングが成立するか、それとも良いレスポンスが得られずに終わってしまうかは分かりませんが、試みる価値があると考えていただければと思います。結果は来年度以降の活動にも役立つと考えられ、特に、会報の配布先のリストは、科学コミュニティ中のニーズ、シーズの情報についてのデータベースの作成のためにも役立つのではないかと考えています。

（佐々木明）

平成 28 年度特定非営利活動に係る事業会計収支予算書（案）

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

（単位 円）

特定非営利活動法人原子分子データ応用フォーラム

科 目 ・ 摘 要		金 額		
I 収入の部				
1 会費・入会金収入				
入会金収入	10,000			
会費収入	60,000	70,000		
2 事業収入				
(1) 原子分子データベース構築、普及事業収入	90,000			
(2) インターネット情報提供事業収入	0			
(3) 国際会議、シンポジウム等の開催事業収入	0			
(4) 国内外における研究連携窓口事業収入	0			
(5) 国際会議等への講師紹介派遣事業収入	0			
(6) 教育プログラム開発、教育支援事業収入	0			
(7) 書籍、機器、ソフトウェア等紹介事業収入	0			
(8) 書籍、電子媒体、グッズ等製作販売事業収入	0	90,000		
3 その他の収入				
寄付金収入	10,000			
補助金収入	0	10,000		
当期収入合計（A）		170,000		
前期繰越収支差額		168,171		
収入合計（B）			338,171	
II 支出の部				
1 事業費				
(1) 原子分子データベース構築、普及事業費	100,000			
(2) インターネット情報提供事業費	16,000			
(3) 国際会議、シンポジウム等の開催事業費	0			
(4) 国内外における研究連携窓口事業費	0			
(5) 国際会議等への講師紹介派遣事業費	0			
(6) 教育プログラム開発、教育支援事業費	0			
(7) 書籍、機器、ソフトウェア等紹介事業費	0			
(8) 書籍、電子媒体、グッズ等製作販売事業費	0	116,000		
2 管理費				
役員報酬	0			
事務所借料	50,000			
備品費	0			
消耗品費	1,000			
通信費	1,000			
租税公課	1,000			
法人税等	0			
雑費	1,000	54,000		
3 予備費				

予備費	0	0	
当期支出合計 (C)			170,000
当期収支差額 (A) - (C)			0
次期繰越収支差額 (B) - (C)			168,171

## 第5号議案 会報担当役員および係

平成28年度の会報担当役員および係を以下のように提案する。

(係の内容：会報の作成および発行)

担当役員 田沼 肇

担当係 今井 誠

## 第6号議案 平成27年度のフォーラムセミナー

平成28年度のフォーラムセミナーの開催日程を以下のように提案する。

日時：平成28年12月20日（火）～22日（木）

場所：核融合研

目的：バイオ、医療、農業などの応用プラズマやプロセスプラズマにも共通の原子分子過程を取り上げ、原子分子データの立場から基礎と応用の中立を図り、現象のよりよい理解、研究開発への寄与を図り、原子分子データのニーズとシーズのマッチングを図る。昨年度に引き続き、核融合科学研究所の一般共同研究「プラズマ科学における分光計測の高度化と原子分子過程研究の新展開」（代表 難波慎一・広島大）との合同研究会として開催し、関係する多くの研究者などの間で情報交換が行えるようにする。

担当役員 佐々木明、村上泉

担当係 難波慎一、鈴木千尋